

平成23年度 第4回木更津市史編集委員会 会議録

1. 会議名 平成23年度 第4回木更津市史編集委員会
2. 開催日時 平成24年3月19日（月）午後1時30分～4時30分
3. 開催場所 木更津市役所（4階）副市長応接室
4. 出席者 市史編集委員会委員 出席8名
金子 馨委員、橘田 昭雄委員、實形 裕介委員、藤平 量郎委員、野中 徹委員、
三浦 茂一委員、須田 昭平委員、鹿間 和久委員
教育委員会事務局 7名
初谷教育長、石井教育部長、北原教育部次長、本多文化課長、浅野主幹、中能主査、
時山事務員
5. 議題及び公開又は非公開の別
議題1 「(仮称) 木更津のあゆみ」の進捗状況について（公開）
議題2 その他
(非公開の理由)
6. 傍聴人 なし。

事務局（中能） 　　ただ今より、第4回木更津市史編集委員会会議を開会いたします。
本日の市史編集委員会は、梶山・高崎委員から都合により欠席のご連絡がありましたのでご報告します。会議につきましては、附属機関設置条例第6条第2項の規定により委員の半数以上の出席により成立しております。
また、本日の会議は公開で行い、会議録の作成のため録音をさせていただきますので併せてご了解願います。
それでは、はじめに初谷教育長よりご挨拶を申し上げます。

初谷教育長 　　(初谷教育長挨拶)

事務局（中能） 　　次に、橘田委員長よりご挨拶をお願いいたします。

橘田委員長 　　(橘田委員長挨拶)

事務局（中能） 　　ありがとうございました。では、これから議事に入らせていただきたいと思います。議長は、委員長をお願いする規定となっておりますので、橘田委員長に議長をお願い致します。

橘田委員長 それでは、議長を務めさせていただきます。よろしくお願ひいたします。
 では、議事に入らせていただきます。本日は、「(仮称) 木更津のあゆみ」
 の進捗状況についての報告ということで、ございますので、事務局より説明
 願ひます。

事務局（本多課長） (本多課長、概況説明)
 全体に渡ります進捗の状況は、以上のとおりでございますが、各班ごとの
 状況につきましては、浅野総括から説明させていただきます。

事務局（浅野主幹） (各班ごとに状況説明)

橘田委員長 ありがとうございます。事務局より、「図説 木更津のあゆみの進捗状況
 について」のご報告がありました。
 はじめに、質問があればお願ひいたします。

藤平委員 概説が各班にあります、表紙はないですね。表紙はなしで、概説から始
 めるということですか。

事務局（浅野主幹） 前回の会議では、こちらで中扉を用意していましたが、当初の計画から中
 扉は設けない計画でしたので、中扉は設けないということになりました。

藤平委員 それでは、概説のところに原始古代なら原始古代、中世なら中世、と字が
 入りますか。

事務局（浅野主幹） そうですね。そのようにしたいと思っています。

藤平委員 わかりました。

鹿間委員 目次が無いですが、章、節というように分類が進んでいくということによ
 ろしいですか。

事務局（浅野主幹） そのように考えているところであります。

鹿間委員 そうすると、構成の段階で整理されると思いますが、たとえば、5頁のよ
 うに右端のインデックスのようなものはつけますね。5頁の右端は節になっ
 ています。基本的には右端が章で、次に節がくるというように統一するとい
 うことよろしいですか。

- 事務局（浅野主幹） はい、そうでございます。
- 鹿間委員 各章のところに概説がくるということで、先程33頁から82頁が原始古代と言われましたが、その間の67頁に概説があります。どのような位置付けでしょうか。章の冒頭にある概説ではないということですか。
- 事務局（浅野主幹） そのようにご理解頂ければいいかと思います。原始・古代と分類していますが、その中で原始の概説と古代の概説が設けられています。
- 鹿間委員 はい、わかりました。
- 橘田委員長 他にありますか。金子先生、どうぞ。
- 金子委員 前回の会議で原稿を読ませていただいて、です・ます調で書かれたものがありましたよね。その点はどういたしましたか。
- 事務局（浅野主幹） まだ、訂正をしておりません。そのままになっております。
- 金子委員 常用漢字以外の字が使われているときは一番初めに出てきた字にルビをふり、同じ字が出てきたらふらないというようにしていただけますか。
- 事務局（浅野主幹） そのような方向で考えております。
- 金子委員 それから、木更津市の地図を添付するのですか。
- 事務局（浅野主幹） 今のところ木更津の市街地の地図などの添付は考えておりません。
- 實形委員 紹介のところに取りあげないのですか。
- 事務局（浅野主幹） 紹介のところでどのような図版を入れるか考えております。先生方のご意見も頂きましたので、半頁くらいの大きな縮尺で1枚入れたいと考えております。その方向で進めたいと思います。
- 橘田委員長 他にありませんか。

實形委員

先程も出ていましたが、最初のところで章、節と2行になっています。ただ、2行になっていると、非常にスペースがもったいないと思います。組み方を少し工夫すると良いと思います。見開きというのは節のところですべて完結している構成になっているので、見開きでは節がわかっているだけで十分だと思います。

また、自然の章に概説がないので、どこかに見出しを入れなければいけません。他の章をまねして入れてみたほうが良いです。今のままですと見づらいです。見開きでは、節にタイトルが1つあって、どの節を読んでもおもしろいというようになっています。見開きで完結しているのに、どの節を読んでも読みきれようになっています。柱や見出しのつけ方は、既刊の図説が多くありますので参考にして、右肩と左肩のところに柱を入れれば、自然や各時代の処理ができます。本文中はゴシックでつり見出しを入れると良いですね。本文中に2、3個、10文字くらいで簡潔に見出しを入れると見やすくなります。手直ししながら、つり見出しを入れる作業を各執筆者にお願いしなければいけません。

橘田委員長

これは、章・節の位置付けの問題ですね。

事務局（浅野主幹）

章の部分の枠を削るということですか。

實形委員

そうですね。章・節の入れ方が2行ですと本文スペースがもったいない構成になってしまいます。

事務局（浅野主幹）

今は章のところが印刷の関係で切れてしまっていますが、右側いっぱい章を立てて、時代別の色を刷り込もうという算段であります。本を立ててずらすと色が出てきます。例えば、緑は自然、茶色は原始古代というように考えております。

實形委員

1行目の章は、見出しにしては長すぎます。見出しは、自然、原始古代、中世、近世、近現代、民俗とついていけば十分です。実は、章の見出しはいらないのです。なので、もう少し省略して、柱にするほうが良いです。要するに、頭の右端と左端のスペースに章を入れれば良いのです。

初谷教育長

天井に横書きで入れるということですか。

實形委員

そうです。そのような処理の方法もあります。やはり、いくつかレイアウトしてみると良いと思います。現在の2行のままだと非常にわかりにくいので

す。章の数が多すぎます。一般的に、各時代で見出しがあれば十分です。

橘田委員長

各章のところに自然や古代などを入れるということですか。

實形委員

はい。見出しは、短くていいのです。2センチ程度ですかね。10センチ以上の見出しが何個もあるのは、見出しになりません。要するに、見出しとしては成り立つのは自然などの編です。その中で4つ程度に分かれていて、さらに20本くらいのタイトルがあるというのが一般的です。大きなグループの単位が編であり、その中で何章かに分かれています。さらに各章に4つ程度節があり、各節に4つ程度のつり見出しが入れば読みやすくなります。

事務局（浅野主幹）

理解いたしました。

例えば右側の部分が6部門、7部門に分かれますので、その幅でまずは原始古代からずっと分けてきて、章の部分を上の右と左のほうに第何章〇〇という言葉を入れ、現在の節の部分は移動なしでそのまま入れておくというようなお話でしたが、すっきりして良いと思います。

橘田委員長

良いかどうかはやってみないとわからないので、いくつか例を作ってみてその後検討すると良いと思います。読者が見やすいようにするのが一番ですから。

事務局（浅野主幹）

わかりました。いくつか作ってみたいと思います。

實形委員

自然や古代のように章・節を入れているパターンと入れていないパターンを作ってみて、どちらが座りが良いかですね。数字も算用数字にするなど様々な例を作ってみると良いと思います。

橘田委員長

そうですね。そもそも、目次がどこに行ってしまったのでしょうか。

實形委員

次回はきっと目次がありますよね。きちんと見開きで収めないといけませんね。

校正は3回ということですね。フルカラーになるので、写真や図の色を指定するため色校をしないといけません。色校は少なくとも2回ですね。文字の校正は2、3回で、最後に確認で1回あると良いですね。業者にもお願いしても思い通りの色が出るわけではないので。例えば、赤みが出てしまった場合に色直しをしたり、指定した色であるか確認したりする必要があります。

ですので、色校は2回程度必要です。300ページ程度色校しますので大変で

す。撮影した人、現物を見た人でないとわからないこともあるかと思いますが、指示していただかないといけませんので、指示していただかないといけません。

橘田委員長

文字校正と色校正のことを考えていくということですね。

それでは、事務局の発表によってご意見がいくつか出ましたが、今後の運び、皆様が読んだ内容について、忌憚りの無いご意見をお願いします。

須田委員どうぞ。

須田委員

全体を読ませていただいて目に止まったのですが、数字の考え方が違っているところがあります。まず、9ページですが、3段目に「最終氷期に突入する。約二万年頃のピーク時では」と表現されています。また、10ページに「縄文の海一古小櫃川の形成— 約一万二千年前頃から」と書かれています。

氷河期と氷期という言い方がありまして、35ページの「氷河期を駆け抜けた狩人」とありますが、氷河期と氷期の考え方から言うとおそらくこの氷河期という言葉の使い方は間違っています。氷河期というのは間氷期で、寒冷化するときと温暖化するときがあって、寒冷化するときを氷期というわけです。おそらくこの三万年前と考えられる氷河期というのは氷期という表現が正しいと思います。

あと、36ページで「一万六千年位前から地球規模で温暖化がはじまる」とあり、10ページでは「約一万二千年前頃からは急速に温暖化し」とありますが、どちらが正しいのか判断が付きません。そのあたりの統一が必要ではないかと思っています。

藤平委員

10ページの記述が正しいと思います。

須田委員

また、36ページの「寒冷化に伴い南極・北極の氷が厚くなるなど、今より海水面が最大で140メートルくらい低かった」とありますが、9ページでは、「寒冷化のピーク時では、海水面は100メートル以上も低下」とあります。

藤平委員

以上という表現なので良いと思います。確かに地質学の場合と考古学の場合とは違いますからね。

須田委員

他にもあります。33ページの概説に「当時は氷河期の終わり近くにあたり」とありますが、「氷期」ですね。

藤平委員

そうですね。

- 須田委員 たしかに木更津の旧石器時代に人々が住み始めたのは、今から3万年前と発掘の成果であります。3万年前に氷期の終わり近くにあたるというのは違いますよね。
- 藤平委員 そうですね、違いますね。
- 須田委員 そうすると、木更津の古代史で定説となっている3万年前に氷期が終わるという表現は間違いですよ。
- 藤平委員 そうですね。最終氷期の一番厳しかったときは、1万8千年前ですから。1万6千年前もまだ寒いですよ。
- 橘田委員長 では、三浦委員どうぞ。
- 三浦委員 9頁に柱として、海底の時代、古東京湾の時代、縄文の海、低地の形成とありますが、見やすいですね。
- 橘田委員長 他に気がついたことがあればどうぞ。校正する際に参考になりますから、いろいろ指摘していただかないといけません。市民が読むという視点で見てください。
- 須田委員 もう一点よろしいですか。13頁の「京葉工業地帯」とありますが、「京葉工業地域」だと思います。昔四大工業地帯と言っていましたが、今は三大工業地帯になっていますよね。京浜・中京・阪神が工業地帯で、その他は工業地域となっています。教科書では地域となっています。
- 橘田委員長 そうですね。ところで、太田山の読み方はオオダヤマですか、オオタヤマですか。
- 須田委員 オオダヤマですね。
- 橘田委員長 13頁ではオオタヤマとなっています。間違いですね。
全体的にルビがないので難しく読めませんね。中世はルビがないのでどのように読むのか困るかと思います。
金子委員どうぞ。
- 金子委員 前回の会議でもルビの話がありました。

- 事務局（中能主査） ルビについては、前回の会議のときに實形先生からも事務局で管理しなさいとのご指摘がありましたので、進めている最中です。
- 橘田委員長 わかりました。
- 初谷教育長 固有名詞や歴史用語以外の一般の叙述の文では、高校生が読めるくらいの常用漢字を使用したほうが良いと思います。
- 橘田委員長 古代ではモウダの「ダ」が略字ですが、本字を使用した方が良いと思います。69頁に望隋郡、望陀郡と両方出てきています。統一すべきですね。
- 事務局（浅野主幹） この点につきましては、執筆者の方から情報を得ておまして、当時の字の用例を見ると、タイトルにある望隋が使われているそうです。その後、望陀が使われているそうです。そのことを意識して、あえて字を選んでいるとお話を伺っていますので、そのままにしています。
- 橘田委員長 混ざっていて一貫していないですね。
- 實形委員 使い分けているならわかるようにして欲しいですね。
- 初谷教育長 誤植だと勘違いしてしまいますね。
- 實形委員 これだけ見ると混用しているように思えます。
- 三浦委員 概説のところでも少し説明しても良いですね。
- 橘田委員長 「コオリ」についてもそうですね。評と郡がありますが、現在は郡と使われています。この扱いも「ダ」と同じですね。
- 金子委員 専門ではない人が見ると違和感を感じます。
- 須田委員 69頁のところでもよろしいですか。「小櫃川流域にも馬来田国造が置かれた。最近では金鈴塚古墳に続く7世紀前葉の方墳松面古墳に葬られた首長を最初の国造とみなす説が有力だ」とありますが、歴史的な事実ですか。
- 事務局（浅野主幹） 現実的には意見が分かれるところであります。

- 橘田委員長 意見は分かれるかもしれませんが、最近では有力説だといわれています。
- 事務局（浅野主幹） 実際に木更津地域の馬来田の国造の成立をいつと見るかという問題があります。その部分が証明できませんので、どこまで遡るかによって意見が分かります。
- 須田委員 意見が分かれるなら、みなす説もあると表現したほうが良いですね。
- 橘田委員長 細かいですが、69頁の最後のところに正倉院とありますが、正倉の間違いではないですかね。
- 初谷教育長 そうかもしれないですね。
- 橘田委員長 ここは正倉でも意味は通じますよね。
他にご指摘があればどうぞ。近世・近代についてはいかがですか。
- 須田委員 83頁に大野家のことが書いてあり、室町時代から明治時代まで活躍したとありますが、これは間違いですよ。
- 事務局（浅野主幹） 活躍の内容をどう評価するかによります。
- 須田委員 統一見解として明治時代まで活躍したのですか。
- 事務局（浅野主幹） 中世に活躍したというところで終わっていると思います。
- 須田委員 明治時代までというのは明治の初頭くらいまで活躍したということですか。
- 橘田委員長 文書にはそのように書いてありますよね。
- 事務局（浅野主幹） 家柄としての資格は所持しているとなっています。
96頁をご覧頂きまして、「江戸時代には、その一方で矢那村の名主を務めていた。ただ明治初年には廃業を余儀なくされ」と書かれています。明治時代までと言うと、明治時代も入りますよね。江戸時代までとしたほうが無難かもしれないですね。
- 三浦委員 96頁に合わせて明治初年までで良いと思います。

- 橘田委員長 古墳時代は発掘された遺跡が出てきますよね。遺跡の名前が多く出てきますが、読者はどこにあったのかわかりませんよね。地図があれば良いと感じました。矢那川の上流と書かれていますから、矢那川の上のあたりだと検討は付きますが、地図があると遺跡の位置がわかりやすいですね。
- 事務局（浅野主幹） 金子先生に伺いたいのですが、34頁の図が具体的に決まっていますので、原始の地図と遺跡の位置図をここで扱うのはいかがでしょうか。
- 金子委員 かまいません。
- 藤平委員 大野氏のことが問題になりまして、鋳物師は存在したということですが、刀鍛冶は存在したのでしょうか。中世に活躍した大名がいたわけですが、その中で鉄を扱う刀鍛冶はいなかったのですかね。疑問に思いました。
- 事務局（浅野主幹） 馬来田に刀鍛冶がいたと聞きますよね。しかし、詳しい資料がありません。
- 藤平委員 鉄は古代から扱っていますよね。
- 橘田委員長 他に気がついた点があればどうぞ。原稿を読んでみて、図の配置などご意見があればどうぞ。
- 須田委員 年表はもう少し変わりますか。
- 事務局（浅野主幹） いいえ、概ねこのようなかたちで進めていきます。
- 須田委員 279頁の大正時代は2行しかないの少ないと思います。
- 藤平委員 本当ですね。
- 初谷教育長 記事を探さなくてはいけませんね。大正時代は証城寺の狸囃子ができたことなどがありませんね。
- 橘田委員長 わずか15年とはいえ、1つの時代でしたからね。
- 須田委員 大正時代の本文の記述の中で年表に入れたほうが良いものがあれば、拾ってあげれば良いと思います。

三浦委員 年表の項目は、本文から拾っていますよね。

事務局（浅野主幹） いいえ、それだけではないです。

三浦委員 本文は主要なものを拾ったということですか。

事務局（浅野主幹） そうです。

橘田委員長 大正期は195頁に大正会、185頁に伊藤勇吉氏のことが書かれています。

三浦委員 278頁に慶応4年「佐倉藩兵木更津を砲撃(5月22日)」とありますが、砲撃はしていません。どうして砲撃になってしまったのでしょうか。

橘田委員長 佐倉藩兵は来ましたが、砲撃はしていませんね。本文にはありませんね。

事務局（浅野主幹） この部分は削除しても良い内容でしょうか。

三浦委員 そうですね。

事務局（浅野主幹） わかりました。削除します。近世も書いています。

橘田委員長 林さんが出てきましたが、唯一の若年寄の忠英氏は、「貝淵に林邸陣屋跡を置く」のところに入れますか。若年寄になった唯一の偉人でありますから。今度上総博物館が林家の展覧会をやります。
あと、どこかに降伏したとなるはずが、逮捕したと表現されていました。

實形委員 近世の概説のところですね。118頁に「仙台に至って捕縛された」とあります。

事務局（浅野主幹） 少し表現がきついということでよろしいですか。

橘田委員長 降伏、投降という言葉が良いですね。ここでは、投降ですかね。

實形委員 158頁に仙台で投降したとありますので、合わせたほうが良いですね。

橘田委員長 他にございますか。細かなところを指摘してもきりがないですが、真里の里が理科の理になっているところもありましたね。

藤平委員 243頁に「書道芸術院展に棋界初めての」とありますが、棋界ではないですよ。

橘田委員長 そうですね。

事務局（浅野主幹） 執筆者の方に確認してみます。

橘田委員長 235頁の八行目に「多様で自由な言論空間の出現」とありますが、「多様で自由な言論の出現」が良いと思います。
他にありますか。

金子委員 241頁のピカソの指の図の隣にある「北杜生」は「北杜夫」ですよ。

橘田委員長 そうですね。

金子委員 また、271頁に「證誠寺は市内富士見にある浄土宗本願寺」とありますが、「浄土真宗西本願寺派の」の間違いですね。

事務局（浅野主幹） はい。前回の会議でご指摘いただきましたが、手が及びませんでした。申し訳ございませんでした。

金子委員 269頁の真ん中の段に「名伎とうたわれ」とありますが、「名妓とうたわれ」の間違いですね。はっきりわかる間違いは、その都度指摘したほうが良いですね。

橘田委員長 149頁の終わりあたりの「夕月や高観音の御ひざ元」の句だけ他の句と書き方が違います。統一したほうが良いですね。
また、153頁の北斎の絵馬が県の指定文化財になっていますね。

事務局（浅野主幹） はい、県指定文化財になっています。

橘田委員長 ですが、絵馬を奉納したことが「画風などからも確かなようだ。」となっています。「確かだ。」ですよ。

金子委員 　　どこに誤字脱字があるか、事務局は把握しなければいけませんね。

實形委員 　　単純な日本語の間違いを全部訂正するのは無理だと思います。なので、執筆者の方に原稿を送って、訂正箇所を示して頂いて、回収するかたちが良いですね。単純な間違いは直ると思います。ワープロ打ちだと思いますので、同音異義語に非常に注意が必要です。事務局側でも入力していて日本語としておかしいところはチェックしといて下さい。流してしまうとわからなくなりますから。同音異義語の打ち間違いや、言葉が切れている等たくさんあると思いますので、赤でチェックしておくといいですね。

事務局（本多課長） 　　今お話がありましたが、各部門の責任者の方に訂正をお願いしたく思っております。各部門ごとに編集して頂いて、出来上がったものを編集委員会にかけるということで進めていかなければ時間がありません。こちらも随時訂正し、お渡しします。私どもの事務処理が雑で申し訳ございませんが、お願いしたいと思います。

實形委員 　　各班ごとに大事なことは、記述の重複や誤り、また、食い違い、書き漏らしですね。この3つは各班でやらなければいけません。

編集上ではたくさんありますね。である調にすること、一文の長さ、主語と述語、現在形と過去形が混同していないか見る必要がありますね。

他に、つり見出しが本文の内容を端的に表現しているかどうか。そして一番大事なことは、読者に対して不快な表現を使用していないかという点ですね。配慮が必要です。

事務局は、日本語としての統一、和暦と西暦の対応を確認しなければいけませんね。

また、10の使い方ですね、年代のときは「十」を使います。たくさん出てきますので統一しなければいけません。数量を数えるときは万以下の数量はまるになりますよね。

藤平委員 　　質問ですが、10の表現方法について、11頁の「気温十五度」とありますが、よろしいですか。

實形委員 　　はい、正しいです。

藤平委員 　　では、「標高千二百数十メートル」についてはいかがですか。

實形委員 　　正しいです。数字を数えるのではなく、言葉として見ますので。

橘田委員長 105頁に「享徳の乱（一五四四～一四八三）」とありますが、これは年が逆ですね。また、111頁に「一般に半手とよんでいたらしい」とありますが、実際に調べてみましたが、半手と呼んでいたそうです。

三浦委員 半手はもちろんふりがなを振りますよね。

橘田委員長 もちろんです。この部分は、「いたらしい」ではなく「よんでいた」が良いですね。見出しが「房総の戦乱と半手」となっています。半手と呼んだのが確かだからこの見出しにしたわけですよね。

藤平委員 107頁の上の段の「読訴」というのは何でしょうか。

須田委員 「讒訴」だと思います。

藤平委員 そうですね。

初谷教育長 図の下には全て説明が入りますか。

事務局（浅野主幹） はい、入ります。

初谷教育長 図説ですからね。何の図かわからないといけませんね。

橘田委員長 図の配置も考えなければいけませんね。右側が字で左側が図ばかりだと味気ないですね。

鹿間委員 確認よろしいですか。文章中のつり見出しの形を明確に決めたほうがよろしいかと思います。例えば、177頁のつり見出しは、1マス空けてゴシック体で文字があって、2文字空いて文が続いていますが、199頁は冒頭からゴシック体の見出しがあります。177頁の見出しの付け方のほうが良いかと思います。

事務局（浅野主幹） では、小見出しは、1字頭を下げるということによろしいですか。

橘田委員長 はい。統一して見出しは1字下げて、ゴシック体にするということにしましょう。

實形委員 つり見出しは、全て上と下に1マス空けてゴシック体にするのが原則ですね。明朝体がところどころにありますので、直さなければいけません。つり見出しがないところは、早急に入れなければいけません。

事務局（中能主査） つり見出しが入っていないところについては、先生方に数箇所適切な見出しを入れて下さいとお願いするということでお話させて頂いてよろしいですか。

實形委員 はい。話の流れが切れていて改行されているところに2、3箇所適宜入ると良いですね。

橘田委員長 189・190頁は幼児教育について書かれていますが、長須賀保育園に奇特の方がいたので、挙げていただければと思いました。昭和23年に引揚者が来て、引揚者の子どもたちの面倒を見た保育園が誕生したということを入れて頂きたいです。

事務局(中能主査) すみません。巖根保育園と長須賀保育園は並列して書いてよろしいですか。

事務局（浅野主幹） 巖根保育園は昭和22年の話で、長須賀保育園は昭和23年の話なので、できませんね。

橘田委員長 巖根保育園も確か昭和23年だった気がします。

事務局（浅野主幹） 「木更津教会に附属幼稚園が設置され」というところで、「昭和23年には」というように、新たに文章を加えて、長須賀保育園と巖根保育園が開園したとつなげれば文章的にはおかしくないです。確認しなくてははいけません。

橘田委員長 他にご意見ございますか。

實形委員 最後に、事務局は掲載写真を一覧表にしていますか。

事務局（浅野主幹） まだ作成している最中でございます。

實形委員 高倉観音の高蔵寺は3つかぶっていますよね。同じ写真があつて良いのでしょうか。高倉観音は有名ですから、同じアングルというのはまずいですね。古代・中世・近世とかぶっていますので載せ方を工夫しなければいけません。

事務局（中能主査） 私達も写真撮影に行っていますが、どのように写真を撮るか悩んでいるところであります。

實形委員 高倉ですと、高いですから違うアングルで撮ることができると思います。少なくとも同じ時代の中では、本文中に記述があるところだけに入れるというように調整したほうが良いですね。

橘田委員長 各委員の意見も出尽くした感がございますので、本日の協議はこのあたりで終了したいと思います。これからが大変だと思いますのが、事務局から今後のことについてお願いします。

事務局（中能主査） 本日の会議で、今後やらなくてはいけないことが多くあることを確認したところですが、市史発行の日には決まっており、日が短いことがわかっています。事務局としてどう動いていくかぼんやりとしかわからないので、先生方のお力添えがなければ、進んで行きづらいところがあります。本会議が終わりましたら、委員長様と副委員長様と今後のこととお話させて頂きたく思っております。よろしくお願いします。

以上で第4回木更津市史編集委員会を終了いたします。お疲れさまでございました。

平成24年3月19日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

委員長 橘田 昭雄